

林 通親

先日NHKのBSで自然の生態系の番組を見ました。植物同士がどんなに複雑な関係を持っているのか、また植物は昆虫をはじめ、動物とどんな関係をもっているのかがよくわかる番組でした。その番組の最後の方で、一本の木が死ぬと、その木と密接な関係を結んでいた地下の生態系、地上の生態系が失われてしまう。そして、それぞれがどのような関係を結んでいたか、その複雑さはまだ十分には解明されていない。と語られていました。

一本の木が自然界の中で担っている役割の複雑ささえ十分に解明されていないのです。そこで、この準備レポートを読むと「試験湛水により、河畔域の植生については樹種の耐冠水性と冠水機能に応じて変化が生じますが、試験湛水終了後には、植生遷移の初期段階の草本群落や低木群落を中心とする植生に比較的短期に遷移する可能性が考えられます」と予測の結果で述べられています。ずいぶん難しい表現ですが、これは簡単に言うと、試験湛水の後はダム上流の風景が一変するという事ではないでしょうか。つまり長年にわたってダムのない自然環境で作られてきた現在の谷筋の景観と、それによって作られている生態系は消滅して、草や丈が低い灌木状態に戻ります。ということです。試験湛水後の短期と長期の予想図もいれて書かれています。サラッと書かれています。これは恐るべきことだと考えます。ダムから上流の谷筋の景観が一変してしまうということですし、生態系も一変してしまうということです。現在の大きな木が茂り、緑豊かな川辺川の谷の景観が無くなり、草や低い灌木が生えている景観になるということです。当然生態系も劇的に変化することでしょう。「短期的にはそうなるが、長期的には森林になっていくと考えられます。」とも書いてありますが、短期的とは何年ぐらいか、長期的とは何年なのかは書かれていません。ひょっとすると長期的とは、ダムが老朽化して無くなれば元の森林に戻るということなのではないでしょうか？現在の生態系の中で生きている膨大な種類の植物や動物はどうなるのでしょうか。

たとえ試験湛水は生き延びても、大雨がふればダム湖によって水につきり、再び自然環境の攪乱が起こります。そんなことが繰り返されて、川辺川川筋の自然環境の攪乱は、それと複雑につながる五木全体の自然環境の攪乱にまで及ぶと考えられます。最初にのべましたように、一本の木でさえ複雑にほかの生き物とつながり生態系を形成しているのですから、試験湛水によるジェノサイドともいえるべき莫大な木々の死滅は、莫大な生態系を滅ぼすわけで、現在の生態系の中で生きている植物や動物にとっては死の宣告と同じです。

その例としてクマタカについて述べます。クマタカは環境省レッドリストで絶滅危惧種に指定され、国内希少野生動植物種に指定されている希少な大型猛禽類です。五木の谷谷にテリトリーを持ち生息している留鳥です。大型捕食動物として、五木の自然の中での食物連鎖の頂点に立っています。様々な動物を捕食することから、クマタカは豊かな森林生態系の指標種といわれています。つまり、クマタカが生息できるということは、豊かな森林とそれにもとづく生態系が存在するという事です。

私たちは、複数で観察していますので私たちです。10数年以上、ダム建設予定地の周辺

の2つの谷にテリトリーを持つ、2組のクマタカのペアを観察しています。

観察を続けていて、一番気がかりなことは繁殖率が悪いということです。

通常クマタカは2～3年ごとに繁殖するといわれますが、私たちの観察しているひとつの谷のクマタカは5～6年に一回、もう一つの谷のクマタカペアは10数年繁殖が見られず、一昨年やっと幼鳥を確認しました。

先ほど、クマタカは豊かな森の象徴だと言いましたが、ここ10数年の観察からは、現在でもクマタカの棲む五木の森はかなり危機的な状況ではないかと考えてしまいます。

環境影響評価準備レポートでは、繁殖期の工事の一時中断や騒音の抑制などを行うなどとしていますが、これらの措置は対処療法であり、根本的にクマタカの生存を保証するものではありません。問題なのは、ダムが完成した後もクマタカが持続的に繁殖できるかということであり、それは先に述べたように、ダムによる自然環境と生態系の激変で絶望的です。準備レポートにも「繁殖環境の変化により、繁殖成功率が低下及び低下する可能性が考えられる」としています。現在の繁殖成功率も危機的なのですから、これ以上の低下ということは、私たちが観察している谷のクマタカにとっては絶滅さえも意味する大きな打撃だと思います。ほかの谷のクマタカにも深刻な事態だと考えます。クマタカに成り代わり、ダム反対を訴えたいと思います。

私はあの洪水の被災者です。家は2mを超す水がきて全壊でした。2階に避難し、市房ダムの緊急放流を聞いた時の恐怖は忘れることができません。日本一規模が大きな流水型ダム、川辺川ダムからの緊急放流など真っ平ごめんです。あの洪水の検証も不十分なままです。

蒲島知事は命も環境も守る流水型ダムだと言います。しかし、その実態は命も環境も危機にさらすダムだと考えます。地球温暖化による様々な異常気象が起り、自然環境の危機は人間の危機でもあるということが日々明らかにされている時代です。自然環境を大規模に破壊するダムは明らかに時代に逆行しています。蒲島知事は2008年、ダムなき治水を極限までと言明した時、国交省から、流水型ダムの提案を受けたが、流水型ダムには未知数のところが多いとして、その提案は断ったという新聞記事を読みました。正しい判断だったと思います。蒲島知事にはどうかまたその判断に立ち返り、流水型ダムを造るという判断を撤回していただきたい、ということをお願いし述べ、陳述を終わります。